主人公の交替

## 第三節　烏魯木齊より西湖に到る

### 一、露式四輪馬車旅行

三月二十四日午前八時三十分、文武諸官に見送られつゝ、愈〻烏魯木齊を出發せり。此行、三頭輓の露式四輪馬車を用ゐ、別に乘用馬一頭を雇ひ、從僕と交番に車又は馬を用ゆることゝせり。蓋し省内該馬車を用ふるは、塔爾巴哈臺、烏魯木齊間に限る。蘭州以來、乘用せし二輪の支那馬車（四輓頭）は、路の良否に拘はらず、其の進むや頗る緩漫なるが故に、終日車内に蟄居せんか、腰脚等の疼痛に堪へ難く、且つ動搖の甚しき、頭痛をさへ起すに至れり。故に往々護衛の騎兵に請ふて彼等の辭退するを強ひ、彼等を車上の主人公たらしめ、予は騎兵の馬に鞭ち、當日豫定の宿泊地に先行せし事あり。又時には車を下り、悠々徒歩せしことも有りき。就中寒氣酷烈の時は徒歩して温を取り、疲れて車に乘るを常としたり。

時は維れ三月下旬、北路の積雪將に消えんとして、往々泥濘なる處あるも、幅平均八米突以上の平坦路、轔々の響と共に悠々右顧左眄せり。敢て眼を怡ばしむるの